

# 《月々の手入れ》

## 【8月】

葉月、残暑厳しい今月は、中旬までは、ばらの成長期であり、下旬から始まる秋の剪定に向けて、剪定計画をたて、準備に入る月です。

また、暑いので鉢の水切れを起こさないことや、特に西日や各種病害虫対策をしっかりと行いたいものです。

特に、秋口に発生するオオタバコガ、ヨトウムシ類の事前の予防散布を確実にいき、「蕾に穴をあけられた」と悔やまないようにしましょう。

### 今月の主な手入れ

1. 消毒
2. 灌水
3. 施肥
4. 秋剪定計画
5. その他

#### 1. 消毒

8月、真夏日が長く続く日は、雨も少ないため、つつい消毒を忘れがちですが、定期的な散布は怠りなく実施します。

殺菌剤のダコニールは通常の希釈では薬害を起こすので夏場の使用は避けた方が賢明です。どうしても使いたい場合には倍ぐらいの薄目の散布を行うとよいでしょう。

今月まで、葉を落とさずに順調に育っていても、突然天気が崩れ雨にあうような天気もあるので、雨前の消毒を心掛けます。

最高気温が 30℃以上ある真夏日はうどん粉病は蔓延しませんが、黒星病の予防・治療薬を第一に使用しましょう。

殺虫剤は秋口から発生するオオタバコガ・ヨトウムシに効果がある薬剤(マッチ・カスケード・アフーム)3種類を、剪定前後 6 週間を目安に 2 週ごとに、ローテーションを組んで予防散布します。

#### 2. 灌水

最も暑い時期なので、鉢は特に水切れに注意します。鉢の置き場所がタイル、コンクリート類の上では特に暑くなりすぎるので、直接鉢を置かず、西日は遮光するなど暑さ対策を工夫します。

##### (1) 地植え

いつもと同様に乾いたら、たっぷり 10ℓは水遣りします。10ℓも

無断複製及び外部持ち出しを禁ずる

灌水すると浸み込まずに、流れ出てしまうような、水はけの悪い土質は本来ばらには不向きです。当地の田畑、及び山間部の赤土と呼ばれる土壌でも何日も雨が降らず乾いた場合、表面が固まってしまい、吸水が悪くなります。地植えでも夏に水切れを起こすと、下葉から黄色く落葉する場合があります。土壌表面が固くなってしまった場合は根に酸素が届かず、ばらは酸欠症状を起こし、同様に葉は黄変します。

このような土壌は、有機物堆肥類等でマルチングし、冬場に漉き込み土を団粒化し、土壌改良します。または 12 月で説明したように、冬場に表土だけでも入れ替えると良いでしょう。

## (2) 鉢植え

盛夏の鉢植え管理の鉄則

- ① 水遣りが朝方の場合、午前 9 時ごろまでに終えます。それ以後は暑くなりすぎてばらに悪影響を与えます。
- ② 朝露が多い日の早朝は、鉢土の表面が濡れていて、水をやらなくても良いように見えますが、こんな日は日中、晴天になるので、水遣りを怠ると、灌水不足を起こします。
- ③ 水遣りが、朝方でも夕方でも 1 日 1 回で持たない場合、株の背丈や大きさに対して鉢が小さすぎる場合は鉢増しを行う。その他の暑さ対策として鉢の移動、2 重鉢、遮光、マルチング、鉢の下に煉瓦等置き底を持ち上げて台の上に置くなど、次期からの鉢の用土の質を考慮する。
- ④ 鉢ばらは株の大きさ、鉢の大小によって違いますが、鉢底から流れ出るくらいたっぷりと水遣りします。  
水遣りしても鉢の表土に水が溜まらず、鉢底からすぐに水が抜けるような用土は、赤玉土の含有が多過ぎです。水はけが良すぎるので、次期の植替え時から用土のブレンドに保水性のある、資材を多めに使用します。
- ⑤ 保水性の高い資材には赤土、黒土、ピートモス、燻炭、バーク堆肥、バーミュキュライト、水ゴケ、ヤシ殻等が挙げられます。
- ⑥ 盛夏での根鉢を崩すような植替えは禁物ですが、1/2 位に剪定し、根鉢を崩さない鉢増しなら可能です。その場合は、水をたっぷり与えて、日陰に 1 週間程度置き、水切れを起こさないよう管理します。新芽が動き出してから置肥し、日の当たる場所に戻します。
- ⑦ 水遣りは気象条件に気を配りながら行う。つまり朝方なら前日と当日の天候、夕方なら前日、当日、翌日の天候などです。

## 3. 施肥

今月、地植えの場合は追肥の必要ありません。

無断複製及び外部持ち出しを禁ずる

但し、2 番花、3 番花など自由に花を咲かせた FL などは、一株に 2, 3 握りくらいの有機肥料を株元に撒いて追肥します。

鉢植えの場合は、新苗、2 年苗などは月に一度の置き肥を忘れなく与えます。新苗は特に有機質の液肥を週に 1 回、葉面散布なら、消毒薬と混合して散布します。

秋の競技用 HT は、秋の展示会を意識して旧盆あたりから先の追肥、液肥は中止し、品種による葉面散布は薄目か控えめにします。

#### 4. 秋剪定計画

今月下旬から、秋の剪定が始まります。秋のばらはある日一斉に剪定すると、10 月中旬から 11 月中旬まで、早咲き、遅咲きの順に咲きますが、剪定日から開花日までの日数により展示会日に合わせて逆算して剪定日を決めて順次剪定すると、早咲き、遅咲きに関係なく展示会に合わせて咲かせることができます。

「秋ばらは人が咲かせる」の由縁の一つです。

開花日数は各個人の栽培環境で多少の違いがあるので、剪定日と最も良い花が咲いた日を開花日として品種ごとに毎年ノートに記録しておきます。ばらは種類ごとに、秋のばらの開花に要する日数があり、概ね 55 日前後で咲く品種を並咲き、それより 5 日ほど早く 50 日ぐらいで咲くばらを早咲き種、60 日ぐらいで咲く品種を遅咲き種、等と分類し剪定します。

特に房咲き種の FL の場合、中心の親蕾を取って周りの子蕾をそろえて咲かせるため、開花日数は当然多くかかり、60 日を超えます。

例えば、剪定から開花までの日数が 60 日かかるばらを秋の展示会が 10 月 24 日に咲かせる場合、10、9、8 月の日数を加えて 60 日になる剪定日を逆算すると、

60 日から 10 月の 24 日を引き、さらに 9 月 1 か月の日数 30 日を引きくと残りは、 $60 - 24 - 30 = 6$  日で、剪定日は 8 月の 31 日から 6 日を引きいた 8 月 25 日となります。

また、展示会日が 10 月 31 日の場合は、 $60 - 31 - 30 = -1$  日ですから、9 月 1 日に剪定すればよいこととなります。

同様に、秋ばらは開花日数が判れば、咲かせたい日がいつであっても逆算して剪定日を自由に決めることができます。

初めて導入したばらの開花日数が分からない場合は、並咲き種の 55 日を開花日数として、例えば 9 月 5 日に剪定して、10 月の 1 番良い花が咲いた日をメモし、翌年以降も同様にデータを取ります。

無断複製及び外部持ち出しを禁ずる

品種ごとの標準的な開花日数はHTの古くからある展示会用品種はある程度発表されていますが、新しい品種は発表されていません。

剪定から開花までの日数は気温や日照時間、栽培地域、場所によって違いがあります。もっと詳細には同じ品種でも地植えと鉢植え、剪定場所、主幹枝の勢力等によっても微妙な違いがあります。剪定日でも朝と夕方とか午前と午後によっても違います。

いずれにしても最も大きな違いは、剪定日から以降の秋の気象条件です。秋の気象予報は、気象庁が8月下旬に発表する3か月及び1か月予報を参考にしますが、最近の傾向はおおよそ当たっています。

最も厄介なのは9月上旬の残暑の程度です。とんでもなく長く続く年は剪定計画よりも遅めに剪定するとか、同じ株でも剪定日をずらした枝を設けるなど工夫します。

気象庁のホームページからこの時期の日々平均気温3か月分を平年値としてダウンロードして、開花までの日数の積算温度を計算することができます。

例えば、前年の剪定日から開花までの日数の積算温度を平年値で計算すれば、おおよそ平年の剪定日を求めることができます。

積算温度の実績が数年分集まれば精度も高くなります。

しかし、ここ数年の秋の気温は平年値より高めに推移しがちで、なかなか計算通りにいかないものです。

自分のばらの開花日数から、剪定日順に品種ごとに剪定計画表を作成し、実行します。

## 5. 切り戻し剪定

今月下旬からの秋ばらに備えての剪定前に、背が高く伸びたHT種は本剪定で一気に、枝の半分以上を切り捨ててしまうとばらはショックを受けてその後、新芽が出なくなったり、極端に遅れて出てきたりして、せつかくのシュート枝からでも良花が得られないことがあります。

先月既述したように、本剪定の前にショックを和らげるために、樹高の1/2～2/3まで切り戻します。

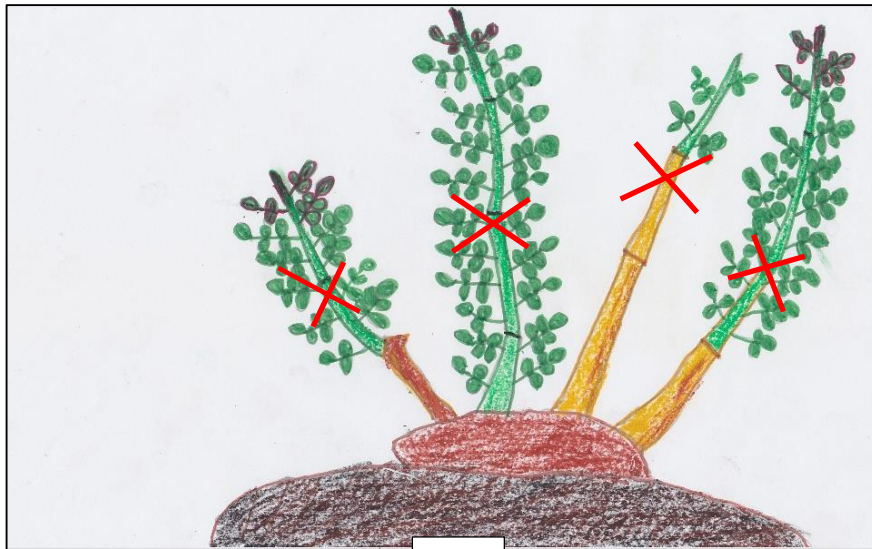


図 1

図 1 は切り戻し前のイメージです。



図 2

○仮剪定

本剪定時にショックを和らげるためだけの、仮りの浅めに切り取る方法で、切り取り後は、さらにハサミを使って深く剪定する方法です。本剪定の 1～2 週間前に行う。

○切り戻し剪定

図 2 は切り戻し剪定後のイメージ図です。仮剪定や本剪定よりはやや深めの切り戻しですが、本剪定から 20～25 日前に行う、8 月の 1 回切り戻しの手法です。8 月まで葉を落とさず普通に育った樹は、この 1 回

無断複製及び外部持ち出しを禁ずる

切り戻し剪定の方が行いやすく、確実に、この後に伸びた新芽をソフトピンチして本剪定を終える剪定方法です。

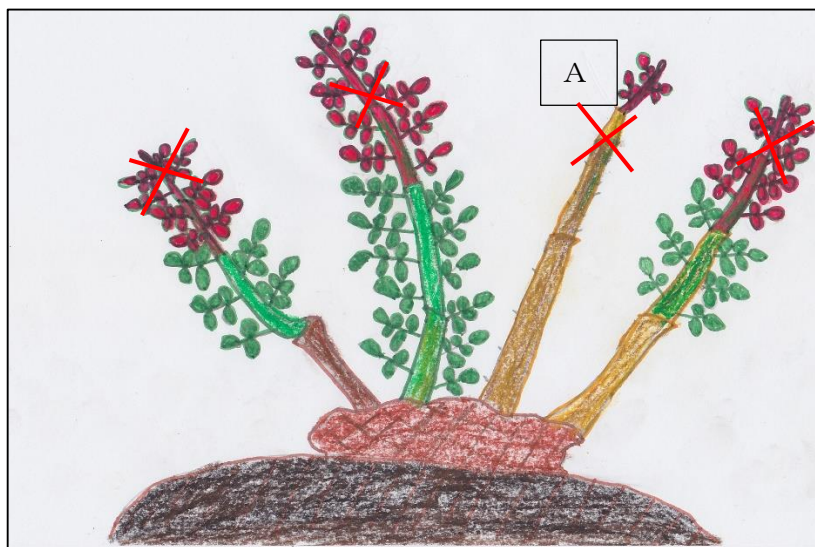


図 3

図 3 は切り戻し剪定後、3 週間後ぐらいに新芽が伸びてきている状態です。この状態で新芽の中ほど、5 枚葉の上でソフトピンチして本剪定を終える方法です。ソフトピンチ後の花枝のほうが太くて充実したステムで良花が得られます。ただし、**A**枝のように新芽の動きが悪く貧弱な場合は、本剪定ではピンチせずに、ハサミを使って切り戻す場合もあります。



図 4

## 6. その他

付表

殺虫剤(系統別・作用機能別)一覧表(ばら栽培を中心とした) 表 1

殺菌剤(系統別・作用機能別)一覧表(ばら栽培を中心とした) 表 2